

# 忍者市を知る

## IGA NINJA 忍者市宣言

— 進歩する忍者研究 —



伊賀流忍者博物館は、昭和39年に開設された伊賀流忍者屋敷を前身としており、1998（平成10年）に伊賀流忍者博物館と改称・リニューアルしました。

防衛のための仕掛けが施された忍者屋敷を忍者やくノーが案内し、展示施設では忍者の道具や武器、生活や歴史などを深く知ることができます。また、忍者の聖地・伊賀市ならではの忍術実演ショーは大人気で、迫力あふれる演武を一目見ようと、国内外からたくさんのお客様にお越しいただいています。

近年、三重大学が中心となり、忍術書に記された多分野にわたる忍術を現代人の生活に応用できないか文系・理系を問わず正式な学問としての研究が進められています。当館においても、「現代に活かす忍術」をテーマに忍者の精神の持ち方や携帯食であった兵糧丸ひょうりょうがん、簡単にできる修行方法を紹介するなど、従来とは違った観点から、忍者や忍術への理解を深めていただくための試みを行っています。



▲萬川集海



このように忍者の真実の姿が次第に明らかになるにつれ、夏休みの自由研究などのテーマにしたいというご相談が増えています。例えば「忍者の道具はどんなもの?」「忍者の使った算術は?」「何を食べていた?」など、いろいろな角度から見た忍者・忍術をテーマとして研究することができます。

市民の皆さんに特におすすりめなのが、身近な忍者の足跡探索。江戸時代、藤堂藩に仕えた伊賀者はもちろん、忍者の源流とされる悪党、有名な忍者の一族とされる服部や百地、藤林にゆかりのお寺や神社、城跡など、リアル忍者を感じる場所が市内にはたくさんあります。調べるほどに忍者・忍術についてより深く知りたくなり、また郷土の歴史を知るとは、地域との結びつきを深める良い機会になると思います。自由研究にお困りの人は、ぜひ伊賀流忍者博物館にお越しください。たくさんヒントを用意してお待ちしております。

（伊賀流忍者博物館 総務係長 幸田 知春）

### 【問い合わせ】

観光戦略課 ☎ 22-9670 FAX 22-9695

## 伊賀市の文化財 116

### 市指定文化財（彫刻） 大川地蔵（磨崖仏）（治田）

お盆は、先祖の霊を迎えて供養する一連の行事で、地獄の釜が開く日とも言われています。地獄では生前の行いを裁く審判が行われ、人々は生前に犯した罪によって苦しい責め苦を与えられるとされます。閻魔王えんまおうや太山王たいざんおうは地獄での裁判官であり、地蔵菩薩じざうぼさつは地獄に落ちて苦しみにあう死者を、地獄の入り口（境界）で救ってくれる存在として、昔から広く信仰を集めていました。

治田字大川、名張川の右岸にある大きな花崗岩には、大川地蔵と呼ばれる磨崖仏が彫られています。地蔵菩薩の両側には、向かって左に閻魔王、右に太山王が、閻魔王から少し離れたところに二体の供養者像が見られます。地蔵菩薩の大きさは3.7メートル、台座の蓮弁から光背までを入れると4.3メートルもある、とても大きな磨崖仏です。

刻線の内側を傾斜させ、身部の盛り上がり表現しています。体部外側のラインの直線的な表現や襷たすきのないうち、また袖先が少し外に反って尖る表現などから、室町時代末期のものと考えられます。

地蔵は、峠や村境などの境界に多く見られます。大川地蔵があるこの

場所は、かつては近くに街道が通り、人々は渡し舟で川を渡る、上野の西の出入り口のひとつでした。この境界を往来する多くの旅人の安全などを願ってここにつくられたと考えられます。

この磨崖仏は、他に例を見ることのできないものとして、平成13（2001）年4月24日に市指定文化財に指定されました。



▶大川地蔵（磨崖仏）

文化財課

☎ 47・1285 FAX 47・1290